

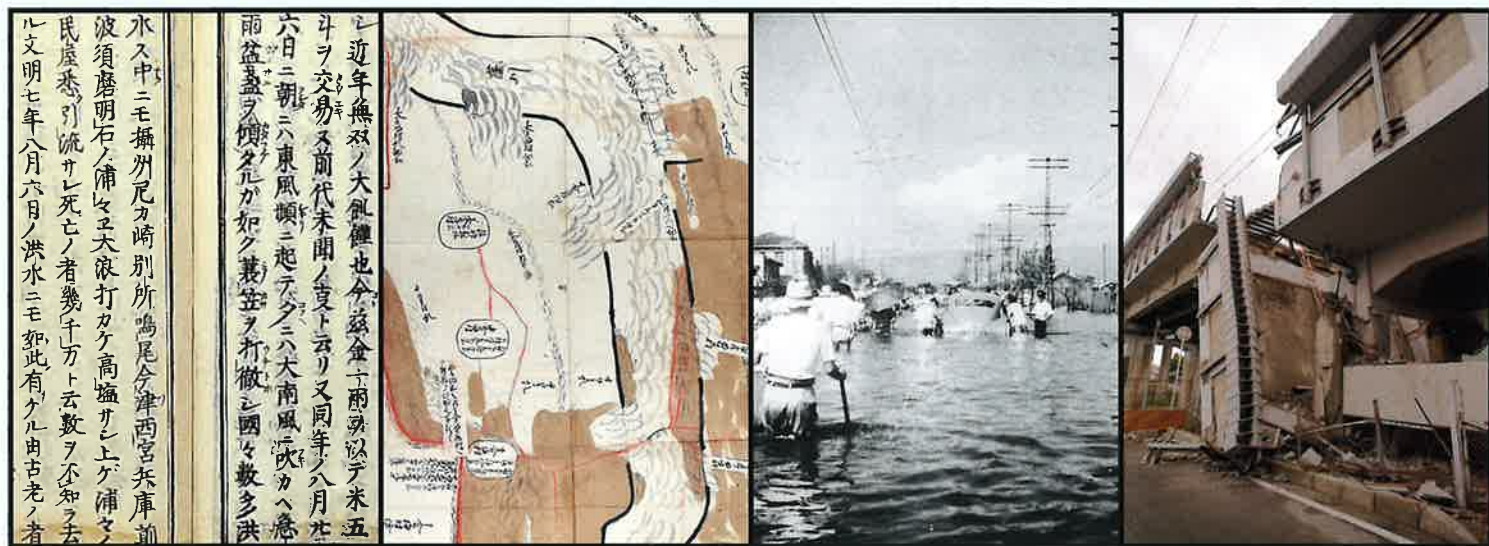
尼崎市立歴史博物館第13回企画展

尼崎・災害の歴史

—阪神・淡路大震災から30年を迎えて—

観覧無料

大物浦難風之図〔文治元年（1185）、大物浦から船出した源義経一行は暴風雨に遭遇しましたが、この暴風雨は義経が滅ぼした平知盛らが亡霊となって起こしたものと脚色され、浮世絵などに多数描かれました〕



写真解説（左から）

- ・弘治3年（1557）の大風・洪水・高潮被害を伝える『重編応仁記』
- ・元文5年（1740）の洪水で藻川の堤防が決壊した状況を描いた絵図
- ・昭和25年（1950）のジェーン台風の高潮で冠水した国道2号
- ・平成7年（1995）の阪神・淡路大震災で落下した新幹線の高架橋

尼崎市内に所在する自然災害伝承碑も紹介しています



令和7年(2025)1月11日(土)

～3月30日(日)

開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日 月曜日（ただし祝日の場合は開館し、翌日が休館）
会場 尼崎市立歴史博物館 3階 企画展示室

水曜歴史講座（プレ事業） 受講無料

日時 1月8日（水）午後2時～4時
演題 阪神・淡路大震災と文化財
講師 当館学芸員
会場 当館 3階 講座室
申込 事前申込不要、定員当日先着 80名

水曜歴史講座 受講無料

日時 3月12日（水）午後2時～4時
演題 阪神・淡路大震災と歴史資料
－災害の経験を通して考えたこと－
講師 当館あまがさきアーカイブズ職員
会場 当館 3階 講座室
申込 事前申込不要、定員当日先着 80名

ギャラリートーク 参加無料

企画展会場で主な展示資料を解説します。

日時 1月12日（日）、2月1日（土）・23日（日）、
3月9日（日）・29日（土）各日午後2時～3時
会場 当館 3階 企画展示室
申込 事前申込不要、定員当日先着各20名



尼崎市立歴史博物館

AMAGASAKI CITY MUSEUM OF HISTORY

〒660-0825 兵庫県尼崎市南城内10番地の2
電話 06-6489-9801（歴史博物館文化財担当）
FAX 06-6489-9800
電車・バス…阪神尼崎駅から南東へ徒歩約10分
自動車…玉江橋線開明橋交差点から東へ約500m
隣接する市立城内駐車場（有料）をご利用ください



○風水害

おそらく尼崎を最も多く襲った自然災害は風水害でしょう。尼崎の東を流れる猪名川・藻川と西を流れる武庫川は河川改修が行われるまでは大雨による堤防決壊を何度も繰り返して尼崎に甚大な被害を与えてきました。また、市域全域が平地である尼崎では集中豪雨による浸水もしばしば発生しました。昭和9年（1934）の室戸台風や昭和25年（1950）のジェーン台風などの台風による高潮被害も何度も受けており、尼崎の海岸線全てを覆う防潮堤建設の契機となりました。



大風洪水後の噂
〔明治4年（1871）〕

ジェーン台風の高潮浸水を示す
プレート〔昭和25年（1950）〕



豪雨被害を報じる
市報あまがさき
〔昭和42年（1967）〕

○地震

地震大国日本と称されるほど地震が多い日本ですが、尼崎での被害が記録されている地震としては、直下型地震である文禄5年（1596）の慶長伏見地震や寛文2年（1662）の近江・若狭地震、南海トラフ地震である宝永4年（1707）の宝永地震や嘉永7年（1854）の安政南海地震などがあります。また、平成7年（1995）の阪神・淡路大震災では49名が犠牲となり、4万1千棟を超える家屋が全半壊するなどの大きな被害が出ています。



間書諸国並大阪大地震つなみ
〔安政南海地震・嘉永7年（1854）〕

北丹後地震を伝える新聞号外
〔昭和2年（1927）〕



仮設住宅北城内案内板
〔阪神・淡路大震災・平成7年（1995）〕

○自然災害伝承碑

過去に発生した自然災害の様相や被害状況を記載した碑やモニュメントを自然災害伝承碑と呼びます。国土地理院では、過去の自然災害の教訓を地域住民に適切に伝えるとともに、教訓を踏まえた的確な防災行動による被害軽減を目指すとの意図から自然災害伝承碑のデータベース化と情報公開を進めています。尼崎市内の自然災害伝承碑については、現在、9か所が国土地理院のデータベースに登録されています。



風災記念碑
〔室戸台風・昭和9年（1934）〕



築地震災復興まちづくり記念碑
〔阪神・淡路大震災・平成7年（1995）〕

元文五年水害犠牲者供養塔〔元文5年（1740）〕